



子育てチャンネル

子ども・子育てを通してつながり合う町に

先日、旭川で行われた子育て支援担当者の研修会で、東川町子育て支援センターの坂東先生に久しぶりにお会いしました。東川町幼児センター「ももんがの家」が開設してからもう10年だそうです。当時旭川に住んでいた私は、幼児教育、子育て支援の専門家として開設準備のお手伝いをさせていただいたことを懐かしく思い出します。

この計画に携わった方々は、「東川の子どもたちを平等に大切に育てる」「東川を子育てのしやすい町にする」という大きな願いを持ってこの事業に取り組んでいました。大変だった連日の会議や書類作成も新しい幼児センターをつくる喜びや充実感に支えられて進み、今こうして、東川町の子育ての拠点としてしっかり根付いた「ももんがの家」

があるのです。すばらしいですね。

わが家の3人の子どもは、幼児期から12年間を旭川で過ごしました。私は今、千葉に住んでいます。都へに行けば行くほど、各家庭や子育ては孤立しているように感じます。各地で保育や子育てに関わってみると、やはり

り北海道は子どもが子どもとして生きていくと活できると感じます。

この「子育てチャンネル」を読んでも、子どもらしい時間や過ごし方を大切にしようとする大人の息づかいが感じられ、子どもを介してつながる大人の姿が目につかびます。知ってか知ら



すか、わが家の3人の子どものうち、2人は今、北海道で暮らしています。過ごしやすい、と感じているからだと思います。

幼児教育にはさまざまな理論や育児法がありますが、今改めて思うことがあります。それは、子どもが育つためにも、子どもを育てるために

も、人とつながりやかわりが基本であり、育ちの原動力であるということなのです。

子育て中のお母さんに必要なのは、必ずしも特別な指導者ではなく、同じように子どもを育てる人の存在であり、話を聞いて一緒に考えてくれる人です。子ども

もたちには一緒に遊ぶ友だちであり、いろいろなことを教え、見守ってくれる先生や保護者、周りの大人の存在が何より大切です。東川の子育て支援センターの皆さんもいろいろな方々としっかりつながり合っています。

東川町は子育ての当事者であるお母さん、お父さんが、子どもや子育てを仲立ちにつながり合う、そんな町に育ってきているように感じます。東川の子育てに係わった一人として、大切に育てられた子らが町づくりに参加し、これからはさらに素敵な町に育っていくのを楽しみに見守りたいと思います。

和洋女子大学教授

太田 光洋